

令和4年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
1 保護者・児童ともに、昨年の結果を上回っており、よい傾向にある。これは、日頃からの学校の取り組みによるものと思われる。しかし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答もあるので、子ども一人一人を大切にされた指導や対応を行い、学校への信頼が高まるように努めていかなければならない。	
2 昨年度、3・4の段階で教職員は100%、保護者は94%と評価していたが、本年度は教職員、保護者共に3・4における評価が減っている。教育活動全体における充実に努め、保護者への発信を増やしていきたい。	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
3 わかる楽しい授業の創造に対し、保護者が8割以上、生徒と教職員が9割以上が好意的な回答をしている。今後もクラス全体や子ども一人一人の実態を的確に把握し、児童の思考の流れを大切にされた授業づくりや教材開発に努めていきたい。	
4 日頃の学習場面において、タブレット端末を活用していることにより、すべての項目で8割以上が「活用している」と回答している。また、児童の5割以上が「とても活用している」と回答しており、意欲的に学習に活用していることが示唆される。一方、保護者の中には「活用していない」という回答も多く、今後、家庭と連携をとりながら、家庭でのタブレット端末活用を推進していく必要であると考えます。	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
5 保護者と教職員の認識にずれがある。見つめる会・校内支援委員会・ケース会議などを必要に応じて、実施し、SC、SSWなどの専門的な関係機関や保護者と連携し、児童が安心して学校生活を送るための手立て等を検討した。そして、実際に取り組みを行ったことで、児童の変容を見ることができた。一人一人の児童の次へのステップに向けて、少しずつ前に進め取り組みができたことで教職員の評価が高かったと考える。今後、専門機関を交えて相談できる体制やその成果を、発信し、保護者の理解を深めていく必要がある。	
6 子どもたちには、「交流及び共同学習」が相互理解につながっているという認識が高いため、取り組みとしては成果につながっていると思われる。しかし、昨年度と比べると、保護者の「わからない」という回答が増えているために、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」という回答が、減っているように見られる。このことから、今後も本校の特別支援の取り組みをわかりやすく家庭に発信していく必要があると思われる。	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>7 保護者、児童、教職員に安全教育ができていないという点で意識のずれが見られる。児童の多くは概ね安全に気を付けて過ごしていると認識しているようだが、けがや危険行為の多さを目撃している教職員や保護者は十分徹底しているとは捉えていない。</p> <p>8 教職員は昨年より高く評価している一方で、「連携・協力ができている」と考えている保護者は、1割ほど減っている。新型コロナウイルス感染症のため、保護者が学校に来る機会が減ったことや集合しての授業参観・学級懇談会などが開催されず、保護者と会う機会が少なかったことが考えられる。また、Zoomによる授業参観だけでは、保護者の理解へは繋がりにくかったといえる。今後は、感染対策を徹底し、対面での授業参観・学級懇談会の実施を検討していく必要がある。</p>	

⑤ 学校教育目標達成のための取り組み	
9 自分の命と他人の命を守る	10 みんなが幸せに感じる行動
子どもは、交通ルールを守り、けがや病気をしないように気をつけて生活することができていると思いますか。	子どもは、まわりの人を「いやだな」という気持ちにさせない行動ができていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>9 保護者・児童と教職員の意識に大きな差異が見られた。交通ルールを遵守することの指導を行っていることや毎日の健康チェックの提出により、保護者や児童の意識が高まっていると考えられるが、教職員は現状よりさらに意識が高まっていくことを期待している。</p> <p>10 児童と教職員との意識のずれが大きい。児童は、意識的に嫌な思いをさせているとは感じていないと考えられるが、教職員は様々なトラブルの解決に向けてかなりの時間を要しているため厳しい評価となっていると考えられる。</p>	

⑤ 学校教育目標達成のための取り組み	
11 自分で考え、判断し、決定して、行動する	
子どもは、だれかに言われた通りにするのではなく、やってよいかよくないか、自分で決めて行動することができていると思いますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>11 生徒の約80%は肯定的に捉えている。保護者も同様に、高い割合で肯定的な回答が得られた。しかし、教職員のうち、肯定的な回答は約50%に留まっている。行動の主体者は生徒であるため、自分で決めて行動することは実際にできていると推測できるが、生徒・保護者と教職員との間に回答の差が生まれたのは、「やってよいことかよくないことかの判断ができていかどうか」という点において認識の差があるのだろうと考える。単に自分で決めて行動するのではなく、適切な善悪の判断のもとに、自分で決めて行動できるような児童を育成していくことが必要であると考えられる。</p>	

来年度の具体的な取組について

○評価の高かった項目について、保護者は「9交通安全、病気やけがの予防」児童は「3確かな学力の向上」「9交通安全、病気やけがの予防」、教職員は「3授業力の向上」「7安全と事故防止」であった。評価の高かった項目については、引き続き取組を推進していく。

○評価の低かった項目として、児童は「10みんなが幸せに感じる行動」であったため、道徳科や人権教育を核にした心の教育をさらに推進していく。教職員は「11自分で考えて行動する」であった。そこで「自分で考え、正しく判断し決定して行動する力」を育成するため、児童が問いを見だし解決していく探求型の学びの中で、実生活を含む様々な場で活用可能な力を身につけることができるよう授業の質の向上に向けた研究を行うなどカリキュラムマネジメントにより教育課程に位置付ける。また児童の主体性を尊重した学校づくりを進めるため、校則見直し検討委員会や学校指定物品検討委員会で児童の意見を取り入れるなど、児童の積極的な参画を行う。

○児童や保護者、教職員の評価にずれがあるところが、数項目ある。学校での取り組みを発信していく必要がある。

○保護者の評価では、「8 家庭や地域との連携協力」が低かった。授業参観や学級懇談会の開催が十分にできなかったことが原因であるとする。来年度は、従来通りの開催を行うことができるよう検討を重ねていく。

○昨年度と比較して、「2 豊かな人間性を育む心の教育の充実」の評価が下がっている。「親子道徳の日」の取り組みについてなどを発信していくことや規範意識の高い児童や相手意識を持った児童を育成していく取組をより充実させていく必要がある。

学校関係者評価

・久しぶりに授業参観ができ、児童が頑張っている姿を見ることができてよかった。また、校長先生からこの1年間の行事での児童の様子をスライドでまとめていただいていたので、児童の様子を知ることができた。生き生きと活動している児童の姿をみることができて嬉しい。

・学校に行くと児童の様子を見る機会がなくなっているため、PTA新聞や学校だよりが届くようになると、もう少し学校の取組や児童の様子を知ることにつながると思う。

・最近はいろいろなことにに関して、価値観が変わってきている。古きよきものがどんどん薄れていっている。だから道徳科での取組が必要である。親子道徳の日などを有効に活用し、親子で認識を深めていくことが大切である。

・通学路の道路に色が付けてあったり、登下校中に地域の方が見守り隊として通学路に立っていたりしている。児童の安全を地域でも取り組んでいる。学校でも安全についての取組を継続してほしい。

・礼儀正しさがあり、挨拶も上手にできていて、素直な児童が多い。しかし、下校中に楽しさが優先されて、注意が入らない児童がいる。

・4の評価は、中学校と傾向が似ている。9割の児童は活用できているが、1割は評価が低いということになる。この1割の児童に対しても、これからの情報化等に向けて取組を充実させていく必要がある。

・学校と地域、学校と保護者、それから地域の中でのつながりなど様々なところの接点が薄くなっている。婦人会で廃品回収を行っているが、子ども会と連携してすることができないか提案中である。今のままでは児童のことを知ることができない。もっと児童のことを知ることができれば、地域で児童を守ることができる。横のつながりができれば、相談ができるようになるなど子育てもしやすくなるはずである。最近、子ども会に入会する人も減っている。PTAからの説明などがもっと必要であるとする。